

第235回 昭和の森自然観察会

森の中は不思議でいっぱい

木嶋恵子（睦沢町）

日 時：2011年7月10日（日）13～15時 天気：晴れ

参加者：大人7名 子ども3名（内1名は乳児） 指導員20名

担当指導員：佐野由輝 藤田浩二 木嶋恵子

例年より早い梅雨明け宣言後の猛暑、公園の人影もまばらな中での観察会でした。最初円形広場で佐野さんが本日の観察テーマについて話した後、木を沈める実験をしました。「浮く！」という大方の予想に反して、朝切ってきた枝は「スーッ」と沈みました。生の木は水をたくさん含んでいたのです。木陰を出ると、強い日射しが肌を刺すようで「暑い！」という声。草地を進むと表土が露出し、溝状に削られているところがありました。4～5年前にアスレチックコース増設のために生えていた木を切ったために生じた現象です。木の根が土を抱える役割をしていることがわかります。

次にいよいよ森に入りました。「ヒヤーッ」としたこの感じ！「どうして森の中は気持ちがいいのでしょうか？」の質問に「気温が低い」「風が吹いている」等の声がありました。事実、日なた37℃に対して、森の中の木の枝に下げておいた温度計は34℃でした。

また、枝にかぶせておいたビニール袋は、内側がくもって水がたまっていました。葉から蒸散した水が気温を下げる要因になっていることに、みなさん納得していました。

また、スギの葉の香りを嗅いでもらいながら、森林セラピストの藤田さんがフィトンチッドの説明を詳しくしました。植物が自らを守るためにつくりだしているもので、人に安らいだ気分をもたらし、血圧降下・鎮静作用・殺菌作用etc様々な効能をもっているようです。これから一層注目される分野ではないかなと思いました。この後、ヒノキ・スギの針葉樹林を抜け、落葉広葉樹林を下り、森の明るさの違いを体感してもらいました。そして、根元で株立ちしている様子や切り株からのぼう芽の様子を観察し、里山は人が手を加えて守ってきていることを説明しました。花菖蒲園に沿った林縁では樹木の種類を数え、実生の幼木を入れるとたくさんの種類があることが確認できました。草や虫など動植物を全てで考えると、森は“命の宝庫”です。

最後に、藤棚の下で土の浸透実験をしました。森の土が踏み固められた歩道の土と比べると、浸透速度が速く、保水力もあることを目の当たりにして感嘆の声が出ました。参加者に森に入って土のフカフカ状態を体験しながら、土の採取をしてもらったり、子ども2人に実験を手伝ってもらったりして、緑のダム実験は成功だったと思います。参加者はほとんどが初めての観察会で、「今までただ歩いていた森にたくさんの不思議があるのを知って興味を持った」

「面白かった、また来たい」等の感想が聞けました。個人的には、準備段階から参加し、学ぶことの多い観察会でしたが、会の流れから資料・当日の説明まで、佐野さんに頼り過ぎました。

さくらは
緑のダム

